

令和3年度 決算報告

法人単位資金収支計算書
(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

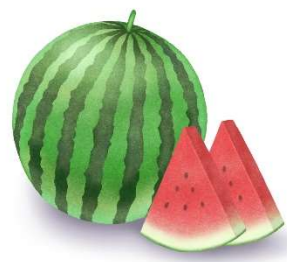
勘定科目		決算(B)	
に事業による活動収入	就労支援事業収入	2,420,318	
	障害福祉サービス等事業収入	116,631,719	
	経常経費寄附金収入	618,316	
	受取利息配当金収入	4,254	
	その他の収入	59,380	
	事業活動収入計(1)	119,733,997	
	支出	人件費支出	88,254,746
		事業費支出	16,874,457
		事務費支出	7,086,766
		就労支援事業支出	2,537,284
支払利息支出		81,672	
事業活動支出計(2)		114,834,925	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	4,899,072		
に施設整備の取備支等	施設整備等補助金収入	24,080,000	
	施設整備等寄附金収入	6,720,000	
	施設整備等収入計(4)	30,800,000	
	設備資金借入金元金償還支出	1,320,000	
活その他による収入	固定資産取得支出	47,621,009	
	施設整備等支出計(5)	48,941,009	
	施設整備等資金収支差額(8)=(4)-(5)	△18,141,009	
活その他による支出	積立資産取崩収入	3,500,148	
	その他の活動による収入	809,038	
	その他の活動収入計(7)	4,309,186	
	積立資産支出	2,505,050	
	その他の活動による支出	26,866	
取支	その他の活動支出計(8)	2,531,916	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	1,777,270	
	予備費支出(10)		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(8)+(9)-(10)		△11,464,677	
前期末支払資金残高(12)		46,878,495	
当期末支払資金残高(13)=(11)+(12)		35,413,818	

法人単位事業活動計算書
(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

勘定科目		当年度決算(A)	
増減の部	就労支援事業収益	2,420,318	
	障害福祉サービス等事業収益	116,631,719	
	経常経費寄附金収益	618,316	
	サービス活動収益計(1)	119,670,353	
	費用	人件費	88,254,746
		事業費	16,874,457
		事務費	7,086,766
		就労支援事業費用	2,537,284
		減価償却費	3,626,089
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△1,781,410	
サービス活動費用計(2)	116,647,932		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	3,022,421		
増減の部	受取利息配当金収益	4,254	
	その他のサービス活動外収益	59,380	
	サービス活動外収益計(4)	63,634	
	支払利息	81,672	
	サービス活動外費用計(5)	81,672	
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△18,038	
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	3,004,383	
	増減の部	施設整備等補助金収益	24,080,000
		施設整備等寄附金収益	6,720,000
		その他の特別収益	309,038
特別収益計(8)		31,109,038	
基本金組入額		9,830,000	
増減の部	国庫補助金等特別積立金積立額	24,080,000	
	その他の特別損失	26,866	
	特別費用計(9)	33,936,866	
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△2,827,828	
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	176,555	
増減の部	前期繰越活動増減差額(12)	41,646,846	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	41,823,401	
増減の部	基本金取崩額(14)		
	その他の積立金取崩額(15)	3,500,148	
	その他の積立金積立額(16)	2,505,050	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	42,818,499	

法人単位貸借対照表
令和4年3月31日現在

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	39,478,405	50,262,820	△10,784,415	流動負債	5,984,587	4,704,325	680,262
固定資産	71,738,804	28,738,982	42,999,822	固定負債	16,284,000	17,104,000	△820,000
(基本財産)	64,459,216	16,565,944	47,893,272	負債の部合計	21,668,587	21,808,325	△139,738
(その他の固定資産)	7,389,588	12,233,038	△4,893,450	純資産の部			
資産の部合計	111,277,209	79,061,802	32,215,407	基本金	19,871,044	10,041,044	9,830,000
				国庫補助金等特別積立金	24,946,982	2,598,392	22,348,590
				その他の積立金	1,972,097	2,967,195	△995,098
				次期繰越活動増減差額	42,818,499	41,646,846	1,171,653
				純資産の部合計	89,608,622	57,253,477	32,355,145
				負債及び純資産の部合計	111,277,209	79,061,802	32,215,407



編集後記：暑い日が続きますが、みなさま体調は崩されていませんか。コロナも長引き、なかなか以前のような楽しい活動ができませんが、一日でも早く収束することを祈っております。法人ホームページの「耳よりハンター」（トップページの下部）で、ちょっと関心のある情報をUPしていますので、一度覗いてみてください。

文責：津浦

理事長挨拶

理事長 三村佳壽子

「新型コロナウイルス感染症」の脅威が少し薄れ、感染者数の減少に胸を撫でおろしたのもつかの間、この数週間で感染者数が増してきております。当法人では利用者様、職員共に感染することなく幸いにも事業を継続させていただいております。ご家族様また職員の努力に感謝申し上げます。

さて、法人はじめご家族様の強い要望であったグループホーム「ファミリア」も開設から1年を迎えることが出来ました。定員7名の内、6名が入居1名が体験されております。スタッフは管理者を中心にサビ管、介護職員(10名)事務職員が入居者様の生活をより豊かにさせていただくよう懸命に取り組んでおります。入居者の皆さまはこれまで、自宅から事業所に通われていた方々で親子ともども離れがたくご家族様はお子様ファミリアに馴染めるか、病気に罹らないかなど気をもまれた事と存じます。又最近では社会の閉塞感が影響しているのかどうかは不確実ではありますが、障がい者施設での虐待がニュースに挙ってきております。ご家族様は私同様ニュースを聞くだけで、胸が詰まる思いです。

障がい者虐待防止法は、平成23年に公布され、平成24年に施行されました。そして、令和4年4月より虐待防止のさらなる推進の為、令和3年度では努力義務であった「虐待防止委員会設置」「従業員の研修」「虐待防止の為の責任者設置」推進の為運営規程への盛り込みなどが義務化となりました。

当法人では、4月に向け数か月前より準備をし、虐待防止委員会設置後第1回委員会開催し、委員長、外部委員設置などを決めました。法人独自の虐待防止マニュアル、身体拘束等適正化マニュアルを使った従業員研修をスタート、事業内に啓発ポスターを掲げました。これらを整えれば虐待が必ず無くなるとは限りません。利用者の皆様に直接かかわる職員に託されます。職員のストレスをできる限り少なくし、信頼関係を築きあげ仲間意識をもって支援に励めるよう運営者として努力工夫をして参ります。

今年度の取り組みとしましては、市より貸与させていただいているわかば園の老朽化への対策推進、移動支援事業開設が挙げられております。わかば園に関しては市、自治会、家族会の厳正な立場からのご意見をいただきながら、また、職員の要望を取り入れ丁寧に進めて参ります。

移動支援事業開設は、ニーズ聞き取り調査で要望が高く地域における生活に欠かせない事業と以前より考えておりました。障がい者児の多くは家族とともに行動することが多く、青少年期に移動支援サービスを利用し家族以外の人と外出することは自立のスタートとなりうと思います。ファミリアに入居されている方にとれば日中の事業所とファミリアとの往復に限定される生活ではなく、違った風景を見、新たな体験を増やし、楽しみをもち、豊かな暮らしを重ねることこそ人生を美しく過ごすことではないでしょうか。

今年度は中期計画の実現に向け皆様方の益々のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



わかば園（生活介護・就労継続支援B型）

管理者 中本定行

波状的に繰り返すコロナ禍の影響で行事のない異例の1年となりました。

わかば園の令和3年度利用状況は、1日平均「生活介護」は、13.8人、「就労継続B型」は、13.0人でした。今年度も、コロナの関係で播但地区の他施設との交流行事「ばんたん親善運動会」「ばんたん・ゆうあい文化祭」は、中止となりました。

園内の行事（バーベキュー、バス旅行、わかば園祭り）も中止しました。地域の行事「大根祭り」も開催されませんでした。

日々の活動では感染防止対策として消毒や換気等を行うとともに、ドライブに出かけても社外に出ないようにするなど配慮の1年でした。しかし、生活介護では季節の変化を楽しむ行事「夏祭り」など、安全への配慮をして規模を縮小し行った行事もあります。

就労継続支援B型では、請負仕事の量の減少は続き、工賃の改善が思うように進んでいません。



てくてく（放課後等デイサービス）

管理者 吉川博

暑さも日々増していき、本格的な夏の季節が訪れてきました。今年度は、新しく3名入り現在18名の方が契約され、毎日定員数（10名）ご利用いただいております。ひとえに保護者様のご理解とご協力のおかげと感謝しております。

今年も自治会の方から笹の葉を頂きました。みんなで七夕飾りを作り、短冊にひとりひとり願い事や絵を書き飾りました。四季の行事を通じて、季節の変化に興味を持てるよう創作活動に取り組んでいます。

昨年同様に、室内ではマスクの着用をお願いし、熱中症にも気を付け水分補給や体温調節・体調管理に気を付けてご家族が安心してご利用いただけるよう、職員一同努めてまいります。



音楽療法



作業



七夕飾り

ぷくぷくほーむ（短期入所・日中一時）

管理者 吉川愛基

日中一時と短期入所を合わせて5名の定員ですが、ほとんどの日が一杯となっています。新たな利用者様も増え、ぷくぷくほーむでの過ごし方にも慣れてこられました。

一人一人の利用者様を理解し、どの様に接したらより快適に過ごしていただけるのかを日々考えながら、一日一日を送っています。ご家族の方からも色々なご意見やアドバイスなどを聞かせていただき、可能な限り取り入れて今まで以上に安全で楽しく過ごせる施設になるよう心掛けていきます。

新型コロナウイルス対策としては、アルコール除菌、手洗い、換気、三密に気を付けて日々対応しています。

ファミリア（共同生活援助）

管理者 前田康裕

前任者の退職を受けまして、この度共同生活援助ファミリアの管理者をさせていただく事となりました前田と申します。つきましては、誠に微力ではございますが、職員の勤務管理や業務状況の把握、災害対策、利用者様への虐待防止措置等運営上必要な業務に取り組み、職員に周知徹底を図るよう努力いたす所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

グループホームは、一人で生活する事が困難な方に対して、支援やサポートを行っていく事で、地域での自立した生活を送る事を支援していく場所となります。グループホームファミリアも、利用者の皆様が自分で生活を送っていくスキルを育んだり、社会生活や地域との交流を図る等、自分らしい生活を送る事が出来るように職員一同精一杯お手伝いさせていただければと考えています。

ぱいろっと（相談支援）

管理者 前田康裕

酷暑の候、平素は格別のご高配を賜り厚く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染者数も減少しては増加するという状況を繰り返し、最近では第7波と言われる急激な増加が見られます。今一度気を引き締めなおして感染対策に努める時期となっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、「相談支援事業所 ぱいろっと」は『令和4年度の取り組み』として、チームアプローチによるケアマネジメントという事に重点を置いております。チームアプローチによるケアマネジメントと言いますのは、利用者様の自立支援という共通の目標に向かって、多職種がそれぞれの役割と専門性から取り組む事で、相談支援専門員として、新しい気付きを得て、よりよい支援を提供するためには、多職種連携が必要不可欠と考えるからです。

多職種の連携によって、①多様なニーズや社会情勢の変化に対応出来る。②一人の相談や一つの機関で出来る事には限りがあるという事を理解する。③連携やチームでの対応により出来る事やアイデアが広がる。④連携各機関の不足部分を相互に補完しあえる。⑤自分や事業所、連携各機関の実践力や質の向上に繋がる。といった5つの重要性を認識する事が出来ます。相談支援専門員が、チームアプローチにおける舵取り役である事を自覚し、利用者様やご家族様の夢の実現に向かって、生活課題（ニーズ）に対して、課題の解決に至る道筋や方向を明らかにして、地域社会にある資源の活用、改善、開発を通し、総合的で効率的に継続した課題の解決が図れるよう日々努力してまいります。



令和3年度 法人事業報告



新型コロナの感染拡大の影響で、各事業所は行事を中止や活動内容の変更をする1年でした。

感染対策を行い、法人内より罹患者を出すことなく運営できたことは有難いことでした。

さて、長年の願いであった共同生活援助事業所「ファミリア」が定員7名で6月15日開所しました。家族から離れ、グループホームでの新しい生活環境に慣れることから、地域で自立した生活の一步が始まりました。

法人では、中・長期計画の見直しを行いました。特に、わかば園の建て替えは、緊急の課題であり、具体的な計画案作りを進めることを確認しました。

ホームページの更新で各事業所の活動の情報の発信を進めています。一度法人のホームページをご覧ください。サービス向上委員会を年2回開催していますが、利用者様のご意見をより聞き、サービス向上に向け、各事業所からの委員数を増やすことにしました。

決算では、施設整備等による収支が大きな額となっております。また、グループホームの取得により固定資産が4,300万余円増になりました。法人の資金収支計算書をご参照ください。